

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：よこはま夢保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：崎山 泰弘	定員（利用人数）：60名
所在地：〒224-0065 横浜市都筑区高山6-23	
TEL：045-949-9614	
ホームページ：https://www.yumekoubou.or.jp/hoikuen/yokoyume/	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2006年06月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 夢工房	
職員数	常勤職員：14名 非常勤職員：13名
専門職員	（専門職の名称）：名 看護師：1名
	保育士：20名 管理栄養士：1名
	栄養士：2名
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：0歳児室 設備：厨房
	居室：1.2歳児室 設備：調乳室
	居室：3歳児室 設備：沐浴室
	居室：4.5歳児室 設備：遊戯室兼ランチルーム
	設備：事務室
	設備：トイレ
	設備：園庭

③理念・基本方針

<理念>

子どもの最善の利益を考慮し、利用者主体を根幹に、行政・地域・保育園の緊密な連携を強化し、地域の子育て支援事業の核となる。

<保育方針>

「子どもは豊かに伸びていく可能性をその内に秘めている。その子どもが現在を最もよく生き、望ましい未来をつくりだす力の基礎を培う。」

見るもの、聞くものに好奇心を誘発され、人に認められ、誉められ、喜ばれることにより、自分自身が生きている意味を子どもなりに感じたり、愛情をたくさん注がれた「人間」の生きる力の大きさを大切にできる保育と、人から守られるだけでなく自立していく過程で、困難なことや悲しいことに立ち向かう勇気と気力を育てていくために、成長過程で課題を解決しようとする自立意欲を助長し、それを実践できる機会を大切に考えられる保育を目指す。

<保育目標>

1. 他人の気持ちがわかる子ども
2. 自分らしく生きる子ども
3. 感性豊かな子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

<よこはま夢保育園の特徴的な取り組み>

●最寄りの市営地下鉄駅に近く、閑静な住宅地の一角に立地する利便性を最大限に生かした家庭的環境の中で、職員全員が子どもたち一人ひとりを温かく大切に見守り、そのやさしい雰囲気の中で、「人」として一番大切なことを伝えながら、子どもたち一人ひとりの輝く未来のために、全力を注ぐ保育・教育を目指しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年08月16日（契約日） ～ 2023年03月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2017年度）

⑥総評

【よこはま夢保育園の概要】

●よこはま夢保育園は、社会福祉法人夢工房（以下、法人という）が、平成18年6月1日に開設した認可保育所です。法人は、「全ての人々が健康で快適な日常生活がおくれること」を、将来実現したい願い・理想として、兵庫県を拠点に北海道から沖縄まで25の保育園・認定こども園を持ち、兵庫県には特別養護老人ホーム、ケアハウスを運営する等、福祉サービス事業を幅広く展開しています。

●よこはま夢保育園は、横浜市営地下鉄グリーンライン「都筑ふれあいの丘」駅から、徒歩3分程の閑静な住宅地の中にあります。また、「都筑ふれあいの丘」駅が丘の頂点となった地形で位置的に高台にあり、園舎からの眺望は良く、晴れた日には西の山並みに富士山が見えます。近隣には公園も多く点在し、自然豊かで、保育環境に適した地域です。

●よこはま夢保育園は、定員60名（0歳児～5歳児）、現在64名が在籍しています。園舎は鉄筋コンクリート2階建て、白を基調とした趣のある造りです。園舎内は、木をふんだんに使用した温もりと、大きな窓から射し込む光で、明るく開放感に溢れています。定員60名の良さを生かし、「家庭のような保育」をコンセプトに、職員全員が子どもたち一人ひとりを温かく大切に見守り、「人」として大切なことを伝える保育を実践しています。

◇特長や今後期待される点

1. 【「個」を大切にする保育】

よこはま夢保育園（以下、当園という）は、定員60名の良さを生かし、子ども一人ひとりに寄り添った保育を行っています。0歳児～2歳児までは、少人数担当制により、担当保育士が子どもの状況を十分に把握し、一人ひとりの発達に合わせて、遊びや食事を提供し、一日を気持ちよく過ごせるようにしています。また、子どもや保護者との信頼関係が構築されており、保護者からも「手厚い」、「安心感がある」等の声が寄せられています。3歳児～5歳児の保育でも子どもたちの気持ちを大切にし、自分から考えて行動できるように、日頃の遊びや生活面について、必要に応じて援助するよう職員間で共通認識を図り、子ども自身が「楽しみながら生活習慣を獲得していく」ことを、「ねらい」としています。日常的に異年齢の交流があり、笑い合いながら遊んでいる場面が多

く見られ、「おもいやり」・「あこがれ」等、が育まれています。今回の利用者（保護者）アンケートでも「優しい雰囲気」、「小規模園の強みが十分に生かされている」等、意見が寄せられ、正に、「家庭のような保育」のコンセプトを実践しています。

2. 【環境から学ぶ保育】

園庭は、斜面を利用した造りで、子どもたちは築山に駆け上り、大きな木の遊具で遊び、周辺の虫探し、泥団子作り等、興味・関心の赴くまま楽しんでいます。一面が土のため、夏場の泥んこ遊びは圧巻です。泥団子も「光る泥団子」ができて、土の感触からの学びは大きいと言えます。また、園周辺には沢山の公園が点在し、年齢に応じた散歩が楽しめます。散歩先で、動植物との触れ合いを通して、四季を五感で感じられます。年長児が、梅の実が落ちていたのを発見し、梅ジュース作りにつなげる等、子どもの発見や発想を大切にした保育を展開しています。保育園の下駄箱は、平らな台になっており、横の隙間を縦割りにして靴を収納しています。台上には、植物や子どもが散歩先で拾った収穫物が宝物として飾られています。なお、靴箱には名前の表示がなく、子どもたちは自分で選んで靴を入れています。その意図は、「便利な場所の発見」、「姉妹や友だちの横」、「保護者との約束」、「譲り合う気持ち」等々、環境から経験を通して学べるようにしています。これらは「重要事項説明書」にも記載し、保護者の理解を得ています。環境から学ぶ保育は、保育方針「生きる力」・「自立意欲」の基礎になっています。

3. 【実体験を通じた食育活動】

法人系列園と同様に、食育活動に力を入れています。当園では、菜園活動に応じたクッキングはもとより、子どもたちの作品展と並行して、「食フェア」を開催しています。食フェアでは、子どもたちと取り組んできた菜園活動や、年長児の梅ジュース・味噌作り、世界の料理（献立で人気メニュー）等、を分かりやすく展示し、保護者に好評でした。また、魚の解体ショーでは、魚屋さんが大きなブリを持参し、魚の心臓、エラ、浮き袋等を丁寧に教え、魚の映像から魚の種類、大きさの違いを知らせると共に、命をいただくことへの感謝を伝えています。毎日の活動では、その日に出た野菜の切れ端を入れたプレートに子どもたちが集まり、創意工夫しつつ「動植物・顔」等を作って楽しんでいました。子どもたちの発想の豊かさに驚かされると共に、食への興味・関心が広がっています。

4. 【人材確保・育成への取り組みについて】

当園の現状は、常勤職員の平均年齢が36.4歳、平均在職期間が3年のため、経営上の課題として、「人材確保・人材育成」が挙げられています。この課題については、法人共通課題でもあります。当園としては、新型コロナウイルス感染症流行（以下、コロナ禍という）の中、積極的に保育実習生を受け入れ、採用につなげたり（次年度1名採用）、非常勤の正規化、紹介会社の活用等、に取り組んでいます。また、働きやすい職場環境として、産育休が取りやすい職員配置、有給休暇に加えてリフレッシュ休暇制度、昇格に向けたキャリアアップ研修の充実等、に取り組んでいます。法人全体で、これからのビジョンを見据えた中・長期計画を策定（令和5年度中）し、課題解決に向けて取り組むとのことで、今後の取り組みに期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：社会福祉法人 夢工房 よこはま夢保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

第三者評価を受けるにあたり、職員全員が自己評価表を記入し、それを集計した上で職員にフィードバックしました。職員においても法人全体の理念、基本方針、経営課題、事業計画など、職員周知や共通理解が十分でないことが確認できました。

また、コロナ禍の影響があるとはいえ、地域社会との関係が希薄になっていることを改めて認識しました。

さらに、利用者アンケート調査結果では、貴重なご意見を多数いただきました。第三者評価の結果とあわせて共通認識を深め、職員一人ひとりが日頃の保護者の皆様の協力に感謝し、職員一同心を合わせ、保育の向上を目指して、一層の努力をしていきたいと思いをします。

<評価後取り組んだ事として>

1. 法人全体の理念や保育方針の見直し及び中期経営企画の策定が進み、3月の法人理事会で成案を得ました。今後、職員・保護者への周知を丁寧に行いたいと考えています。

2. 第三者評価の内容を職員間で回覧し、当園の課題や利用者のアンケート結果の確認を行うため、改めて話し合いを行います。

3. さらに、今回ご指摘の課題をどのように改善し、保育園としての質の向上につなげるかを職員全員で考え、実践していくことにしています。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり